

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	追手門学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オウテモンガクインダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ実習1~4 追大実践型インターンシップ
	学部・研究科等名	全学部
	担当教職員名・役職	大串恵太 常勤講師 キャリア開発センター副センター長
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	27	
受入企業等数	12	
受入企業等名	株式会社キャッチアップ特定非営利法人いばらき伊丹市立図書館 とば蔵日本品質株式会社紀州・白浜温泉むさし大阪石材工業株式 会社追手門学院大学アサーティブ課株式会社笑美面株式会社グ ドニュース株式会社エムツープレストフクシル株式会社株式会社栄 水化学	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラ ム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生が主体となって事業所の経営課題の解決につながるプロジェクト に取り組んでいる。いずれもプロジェクトの目標達成に向けて、実 際の仕事を体験するものになっている。例えば、イベント企画や広報 物(HP、パンフレット等)の作成、新規事業のテストマーケティング 等、事業所が”やりたくてもなかなかできなかった”ことを実現できる プロジェクトを設計している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラ バス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を 明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われてい ますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	全学年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	最大4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	「基盤教育科目」中の「キャリア科目群」に位置づけられており、シラ バスにおいてインターンシップ全体のディプロマ・ポリシーとの関連 性や実施目的、期待する教育的効果を明確にしている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的 のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が 設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮され るようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していま すか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコ ンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っ ている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動 計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目 的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担 当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	個別の振り返り面談
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面 談を実施している 3.その他
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	日報の随時確認とフィードバック	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの事前学習となるガイダンスを全5コマ(1コマ90分)実施している(参加学生は受講必須)。インターンシップ参加の心構え、目的・目標設定、企業・業界研究、ビジネスマナー等について座学とワークを交えて学ぶ。さらに、追大実践型インターンシップ参加学生のみを対象とした事前研修も実施し、実践型に取り組む上で特に必要な考え方や企画の進め方等のスキルを学ぶ機会を作っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習中は、学生は日報を用いて現場での体験を日々振り返っている。終了後は、成果報告会を開催し、学生がプロジェクトの成果と自身の成長について発表して受入担当者からフィードバックをもらう機会を作っている。その後、コーディネーターが事業所に赴き、受入担当者とプロジェクトの振り返りを行う。あわせて、学生にはインターンシップでの学び・気づきを明確にする個別面談(一人1時間程度)も実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	学生が記入する日報をメール等で大学にも随時共有してもらい、プロジェクトの進捗や学生の様子を見て、適宜両者にフィードバックをしている。また、インターンシップ中に事業所に訪問し、受入担当者と学生の三者で面談を行っている。さらに、追大実践型インターンシップの全事業所・学生を集めての中間合同研修を行い、それぞれの学び・気づきを共有し、プロジェクトの課題解決に向けた意見交換等を行う機会を作っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学の教育目標から項目を定義した独自の形成的EBM(evidence based measurement)指標を用いて、インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握・評価している。インターンシップ中の行動とその結果を記述することにより、従来の自己評価による指標では担保しにくかった客観性のある評価が可能になる。学生も自身の経験や学びを言語化することができる。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実働20日間以上の実施
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生は夏期もしくは春期休暇を活用した約1~2ヶ月の期間で週3~5日程度、実働20~30日程度実習を行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事業所の経営課題に即したプロジェクトを、専門人材が受入担当者と共に設計している。事業所の受入体制の整備、受入担当者のプロジェクトマネジメント力や育成スキルの向上を目的として、専門人材が受入担当者へのヒアリングを行い、学生に対する適切な関わり方やプロジェクトの進め方等について相談・フィードバックを行っている。また、事前・中間・事後の研修には受入担当者も参加し、学生と共に取り組んでいる。
	7.上記①~⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	シラバスは静的URLがないため、詳細資料とあわせて別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	追手門学院大学
	担当部署名	就職・キャリア支援課
	担当者役職名	
	担当者氏名	山元 隆広
	電話番号	072-641-9155
	メールアドレス	intern@otemon.ac.jp